

教育委員会会議録

令和6年（2024年）11月定例教育委員会会議

開 会 日	令和6年（2024年）11月28日（木）	
開 会 時 間	午後2時00分 ～5時45分	
開 会 場 所	SPRING熊本花畑町 7階 D会議室 ※一部オンライン開催 オンラインでの出席者については各執務室	
出 席 者	委員会	遠藤洋路 教育長 西山忠男 委員 澤栄美 委員 村田慎 委員
	事務局	須佐美徹 教育次長 小島雅博 教育次長 中村順浩 総括審議員兼教育総務部長 福田衣都子 学校教育部長 他
提 出 議 案	議第66号 熊本市立学校施設使用条例施行規則及び熊本市旧学校利用施設条例施行規則の一部改正について 議第67号 令和7年度（2025年度）市立学校の校長の特例任用について 議第68号 熊本市指定有形文化財の指定について	
協 議	(1) 熊本市立中学校における新しい学校部活動の在り方（素案）について (2) 令和9年度市立高等学校入学者選抜について	
報 告	(1) 第2回教育委員会広聴事業について (2) 子どもたちの心のケアについて (3) 小中学校の学習者用端末（iPad）の更新について	
自 由 討 議	教員研修のあり方について	
署 名	西山 忠男	
	澤 栄 美	
会議録作成者	教育政策課 甲斐 まゆみ	

〔開会の宣告〕 遠藤洋路 教育長 〔会議の成立〕 遠藤洋路 教育長 〔公開の審議〕 遠藤洋路 教育長 遠藤洋路 教育長	令和6年11月定例教育委員会会議を開会いたします。 本日は、私のほか3人の委員が出席しておりますので、この会議は成立しております。 会議規則第14条第2項の規定に基づき、会議録署名人の指名を行います。会議録署名人は、西山委員と澤委員とします。よろしくお願いいたします。 本日の会議の内容につきましては、会議日程のとおりですが、本日の議事のうち、議第67号令和7年度（2025年度）市立学校の校長の特例任用については、会議規則第13条第1号「教育委員会に属する職員の任免その他の身分取扱に関する案件」に該当すること、また、協議（2）令和9年度市立高等学校入学者選抜については、入試制度に関する意思決定前の情報が含まれるため、会議規則第13条第4号「その他の案件」の非公開事由に該当することから、非公開の審議が適当と思います。 議第67号、協議（2）につきまして、非公開に賛成の委員は、挙手をお願いします。 （全員挙手） 全員賛成により、議第67号、協議（2）は、非公開とします。
日程第1 前回会議録承認 遠藤洋路 教育長	それでは、「日程第1 前回会議録承認の件」に入ります。 7月17日開催の令和6年第5回臨時教育委員会会議録、7月18日開催の令和6年第6回臨時教育委員会会議録、7月22日開催の令和6年第7回臨時教育委員会会議録、7月23日開催の令和6年第8回臨時教育委員会会議録、7月24日開催の令和6年第9回臨時教育委員会会議録、8月19日開催の令和6年第10回臨時教育委員会会議録、11月6日開催の令和6年第11回臨時教育委員会会議録、及び、10月24日開催の令和6年10月定例教育委員会会議録を各委員のお手元に配布しております。

このうち、7月18日及び7月24日開催の臨時教育委員会会議の会議録署名人に小屋松委員を指名しておりましたが、10月1日をもって退任されましたので、会議録署名人を変更して指名したいと思います。

7月18日の会議録署名人は、西山委員と小屋松委員から西山委員と澤委員とし、7月24日の会議録署名人は、村田委員と小屋松委員から村田委員と私とします。

それでは、これらの会議録等を承認することに、ご異議はありますか。

（異議なしの声）

異議なしと認めます。前回会議録等は、承認することに決定いたします。

日程第2 事務局報告の件

- ・（1）事業・行事等報告について

日程第3 議事

- ・議第68号 熊本市指定有形文化財の指定について

《赤星雄一 文化財課副課長 提出理由説明》

西山忠男 委員

これは文化財保護委員会からの推薦を受けて指定の運びということでございますね。

赤星雄一 文化財課副課長

そうですね。答申を受けてということになります。

西山忠男 委員

文化財保護委員会はいった調査を常時行っていて、指定に値すると判断される文化財を見つけたら答申して指定を申し出ること、そういう手順になっているのでしょうか。

赤星雄一 文化財課副課長

直接の調査は文化財課で行いますが、資料がそろった時点で文化財保護委員会に諮問をして答申を受けるということになります。

西山忠男 委員

分かりました。

遠藤洋路 教育長

では、ほかにご発言がなければ採決を行います。

議第68号 熊本市指定有形文化財の指定についてご承認いただくことにご異議ありませんでしょうか。

（異議なしの声）

遠藤洋路 教育長

ご異議なしと認めます。

議第68号については原案のとおり決定いたします。

〔採決〕 【原案どおり承認された】

日程第5 報告

・報告（1）第2回教育委員会広聴事業について

《中川浩二 教育政策課長 報告》

遠藤洋路 教育長

では、川尻幼稚園の栗崎園長に来ていただいていますので、コメントがありましたらお願いします。

栗崎恵子 川尻幼稚園
園長

川尻幼稚園の栗崎と申します。

なかなか幼稚園に来ていただく機会がございませんので、今回このような機会をいただきましてとてもありがたいと思っております。

多数課題を抱えておりますが、すごく耳を傾けてくださいます、特に情報発信というところで、インスタグラムにおいてはソーシャルメディアガイドラインをご提示いただきましたので、後援会の方と相談しながら進めてまいりたいと思います。

そして、昨年度からことばの教室も新設されまして、随分拡充が広がってきているんですけど、そこそこで課題等がありましたら、今後も総合支援課、指導課様にご相談しながら進めたいと思っています。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

西山忠男 委員	感想なんです、お訪ねしたときにも申し上げたんですけど、ことばの教室とあゆみの教室の実態を拝見して、なかなかこういう教育は私立の保育園ではできないだろうと思って、非常に貴重な公教育だろうなと思いました。ですから、ぜひとも、幼稚園の存続に関わるような話も時々出ますけども、こういう教育を大事にして幼稚園が発展していけばいいなと思いました。ありがとうございます。
澤栄美 委員	こどもたちが伸び伸びと活動していて、非常に幼児教育の重要性というのを改めて感じたところでした。ありがとうございました。 思うのは、幼小中連携の部分で、隣に川尻小学校があってもなかなか厳しい面があるということで、先ほどの報告にありましたように、コーディネーター的な方がいるとそういった連携も進んでいくのかなと思いました。なので、これは幼稚園側からはどうしようもないことだと思いますので、事務局でも検討していただいて、今後、コミュニティ・スクールとか進めていく中ですので、1つ懸案事項として検討していただけたらなと思っています。ありがとうございました。
西山忠男 委員	駐車場の問題がちょっと気になったんですけども、駐車場が確保できればもう少し園児を増やせるかなという感じですが。1日中置いておくのはいいとしても、送迎時に駐車するというのは小学校の協力を得られないものかなと思ったんですけども。それも幼小連携になると思うんですけども。 小学校は小学校の教育があるので困るということもあるかもしれませんが、どうなのでしょう。私たちが車を止めたスペースを利用させてもらうとかいうようなことはできないんでしょうかね。どなたに聞いたらいいいのか分かりませんが。という感想を持ちました。
松岡美幸 指導課長	駐車場の幼稚園児の送迎に関する小学校の利用ということで、私自身がその発想がなかったので、なるほどなと思いました。 幼稚園児が小学校を通じて幼稚園に通うということで、こどもたちがそれぞれ触れ合うという機会の創出にはなるという意味でもいいなと思う反面、車の出入りの安全面等も関係してくるかなと思います。小学校に少し聞いて、何かできないか探してみたいと思います。

遠藤洋路 教育長

学校の具体的なつくりとか、それによっても個々に違うと思いますので、一概に言える話じゃなくて個別の学校ごとに検討するということでしょうか。指導課でも、まず口頭連絡をしてみて話し合ってみてください。

遠藤洋路 教育長

私からも西山委員が最初におっしゃったことと共通しますが、人数は少ないですけど公立ならではの役割というのがあるんだなということを見に行きまして改めて実感したところです。いろんな課題、それから要望含めて様々ありましたので、これがいい方向に解決できるようにぜひ教育委員会も取り組んでいきたいと思ったところです。

教育委員会側の課題としては、あまりこれまできめ細かく幼稚園側のニーズが把握できていなかったところもあるんじゃないのかなというふうに思いました。

具体的には、先ほど出てきたインスタグラムの話もそうですし、今の駐車場も教育委員会として本来調整すべきところかと思います。どちらも、幼稚園も小学校も教育委員会が所管している施設ですから、それを自園から小学校にお願いしてくださいねということではなくて、それは教育委員会が調整する必要があるといったところですね。

これまでも園長会議はやっていますが、個別の園の事情というのはあまりちょっと言いにくい感じなんですかね。だから、幼稚園全体としての要望とか、そういう話は聞いたり議論したりは継続的にしているんですけど、個々の幼稚園のそうした具体的なニーズについてもっと気軽に幼稚園からも話をできて、そして教育委員会の中でも共有できる環境というんでしょうか、それが必要かなと思ったところです。

何か幼稚園のほうもとても遠慮がちに担当者に話して、担当者もよく分かんないからそれはできません、みたいな。何かそんな感じでコミュニケーションがなされてきた面が正直あったんじゃないかと私は感じましたので、これから改善できるように教育委員会の側で努力していく必要があったのかなと思います。それは各担当課でもぜひよろしくをお願いします。

では、ほかになれば本件は以上といたします。

- ・議第66号 熊本市立学校施設使用条例施行規則及び熊本市旧学校利用施設条例施行規則の一部改正について

《中川浩二 教育政策課長 提出理由説明》

遠藤洋路 教育長	これはシステムの名前が変わったという、そういうことですか。
中川浩二 教育政策課長	そのとおりでございます。12月1日からのシステムの名称ということでございます。 熊本県・市町村公共施設予約システムというのは、愛称として「よやくまくん」というような名で親しまれていたシステムがございます。この度それが更改をされまして、新たなシステムへと移行することに伴い、名称を変更するものでございます。
遠藤洋路 教育長	分かりました。 新しいシステムの愛称はなんですか。
中川浩二 教育政策課長	新たなシステムの愛称等につきましては、まずは稼働の状況を見ながらということではございますが、スポーツ振興課で今後、公募等を含めて新たな愛称等について検討をされているようでございました。
遠藤洋路 教育長	分かりました。 では、ほかになれば採決を行います。 議第66号 熊本市立学校施設使用条例施行規則及び熊本市旧学校利用施設条例施行規則の一部改正について、ご承認いただくことにご異議ありませんでしょうか。
	（異議なしの声）
遠藤洋路 教育長	ご異議なしと認めます。 議第66号については、原案のとおり決定いたします。

〔採決〕 【原案どおり承認された】

日程第4 協議

- ・協議（1）熊本市立中学校における新しい学校部活動の在り方（素案）について

《朽木篤 教育改革推進課長 説明》

西山忠男 委員

かなりいろいろ考えてくださってありがたいと思うんですが、やはり最大の課題はよい指導者を確保できるかという問題だと思うんですね。人材バンクというのが一応想定してあるんですけど、見通しとしてこれだけの人数。ちょっと待ってください。何て書いてある。

遠藤洋路 教育長

1, 600人です。

西山忠男 委員

1, 600人ですね。1, 600人の指導者を確保できるのかという問題、それについてはどういう見通しでしょうか。

朽木篤 教育改革推進
課長

16ページになります。1, 600人の指導者の想定をしておりますけど、これまでアンケートを実施しております。教職員だけではなく、市役所の希望者、地域の方々のアンケート結果を基に1, 600人の計算をしているところでございます。

それと、指導者の掘り起こし方法については、既に各スポーツ協会や総合型など、説明に伺っておりまして、その反応を見ると、もっと指導者がいるのではないかと考えております。この方針を決定した際には、改めて関係団体に説明し、人材確保に努めてまいりたいと思っております。

西山忠男 委員

もう一つ、人数が集まったとしても、これは教育活動の一環ですから、そのことをやっぱり意識してもらう必要があると思うんですよね。

だから、教員経験者だったらそれはいいと思うんですけど、そうではない方が指導者になる場合、勝利至上主義の指導じゃないんですよということをはっきりお伝えしなきゃいけない。そういう研修も必要なんじゃないかと思うんですよね。非常に体罰が起りやすい活動ですので、そこは十分配慮していかないとたくさん問題が出てくるかもしれないということがあります。その点いかがでしょうか。

朽木篤 教育改革推進課長	18ページの人材バンクのところにも書いておりますが、研修体制の構築・実施、質の担保、これは非常に重要な問題だと考えております。 これまでも教育委員の皆様からも研修体制を充実するようというご指摘はいただいておりますので、既に大学教授で、危機管理を専門にされている先生と少し接触していきまして、今後連携して進めていきたいと考えております。
西山忠男 委員	分かりました。
澤栄美 委員	感想とそれから質問です。1つは後半の下のページでいうと32ページにありましたけど、今まで、学校の先生方の3時間半以内は1,650円、3時間半以上3,300円と休日のみの支給でよく頑張ってくれたなというのを改めて思ったことと。それから、もう一つは、全国的に、先ほども説明にありましたように、民間移行が進む中で熊本市がこういう形にしているということの方向性に向いたということは、私は非常に意味があると思っています。 というのは、いろんなネット上とかで見ても部活動のマイナス面ばかり。働き方改革も併せて、そちらのほうにばかり視点がいつてプラス面に意外に目がいつていない。部活動なんて悪だ、みたいなのも今日もネット上で発信されている方を見ましたが、やはり教育活動として、学校が中心に担いながら民間の手助けを得て、こどもたちの健全な成長を願うという意味でこういった形になったということは、私は非常に良かったかなと思っています。 それで質問なんですけど、26ページの今後の進め方の表の見方がちょっといま一つ分からなくて、この該当する学年というのは、今現在この学年が何年後かにはこうなりますよという、そういう見方ということですかね。対象がその学年という、そういった意味でしょうか。
朽木篤 教育改革推進課長	少し見にくくて申し訳ございません。令和6年度のときの小学6年生が令和9年のときに中学3年生になるという見方でございます。 それと、先ほどの学校部活動の重要性ですが、資料として6ページに再度整理をさせていただきました。こどもの視点、保護者の視点、教職員の視点、あらゆる視点から、学校部活動は教育的意義だけではなくて、先ほど申しましたように福祉的意義を含めて、重要性はあるということを整理しております。

遠藤洋路 教育長	ページの番号が2つ書いてあるんですけど、今言っているのは真ん中に書いてあるほうですか。
朽木篤 教育改革推進課長	はい、真ん中の番号です。
遠藤洋路 教育長	分かりました。 澤委員、コメントよろしいですか。
澤栄美 委員	はい。
村田慎 委員	総合教育会議とかほかの場面でも何回か申し上げたことがあるんですけど、部活動が外部の方であれ、学校の先生が引き続きされるであれ、希望する方がやるということが大前提ということですので、例えばどうしても人手が足りないからちょっと入ってもらえないかというようなときに、指導することを希望していない先生に負担を絶対に強くないで欲しいと思います。そうでなければ、これだけマイナスとかネガティブな意見の先生方が多いというのは、やっぱり負担をととても強く感じておられるということですので、先生に強要してしまっていたら、先生の精神的な負担の軽減というのには絶対ならないと思います。 現行の部活動でも、どうしてもって頼まれて断れずに今頑張っていらっしゃる先生方もきっとたくさんおられると思うんですよね。やっぱり子どもたちのためになって言われてしまったら断りづらいので、どうしても、本当は嫌でもやりたくなくても断れずに頑張ってしまうという先生方はたくさんいらっしゃると思うので、そういう状況で絶対に強要はしないで欲しいと思います。そうした雰囲気にならない環境の維持をぜひしていただきたいなというふうに感じています。
朽木篤 教育改革推進課長	村田委員から以前もご指摘いただきましたところでございますけど、指導を希望する教職員だけではなくて、指導を希望しない教職員に対しても同調圧力等がないように、今後学校とも話し合っていきたいと思っております。
澤栄美 委員	1つお尋ねを忘れていました。部活動コーディネーターなんですけど、非常に重要な役割だろうと思うんですが、もしかしたら以前説明があったかもしれないんですが、ここの位置に置く方というの

	はどういった方を想定しておられているかということをお聞きしたいと思います。
朽木篤 教育改革推進課長	部活動コーディネーターの配置は、通し番号で真ん中のページでは19ページになります。学校長と指導者、担任などをつなぐ役割を果たしていただくということを想定しております。今のところ、退職校長や退職教員を考えております。それを事務局内に配置しまして、部活動コーディネーターとして役割を担っていただくことを検討しております。
澤栄美 委員	熊本市内全域について、お1人がその役を担うということでしょうか。
朽木篤 教育改革推進課長	予算面もありますけど、現在想定しているのは、各区に1名は必ず配置したいと考えているところでございます。
澤栄美 委員	分かりました。
西山忠男 委員	今回の案で私は特に評価したいのは、チャレンジクラブの創設ですね。特に体育系の部活動はどうしても勝利至上主義に陥りがちなので、そのために部活やりたくない、自分が試合に出て失敗するとおまえが失敗したから負けたんだみたいに言われて嫌だと、そういう声もよく聞きますので。そういう意味では、こういうチャレンジクラブで本当に運動を楽しみたいこどもたちが体力向上のための部活動をするというのは非常にいいんじゃないかなと思います。これに対する否定的な意見もいっぱい載っていますけど、まずやってみて何とか成功させて、本当にこういう取組を期待している生徒もいると思うので、ぜひ頑張ってもらいたいと思います。
朽木篤 教育改革推進課長	チャレンジクラブについては、まだ学校もイメージが湧いてないと思っております。否定的な意見の中にも、そのイメージが湧かないのでこういった意見になっていると思いますので、来年度から早速モデル事業でチャレンジクラブをやっていきたいと思っております。それをビデオとかで周知、広報にも使っていきたいと思っております。
遠藤洋路 教育長	では、ほかによろしいでしょうか。 ほかになれば本件は以上といたします。

日程第5 報告

・報告（2）こどもたちの心のケアについて

《吉里麻紀 総合支援課長 報告》

澤栄美 委員

多分、次回に先日の岐阜県の視察のことが出てくるのかなと思うんですけど、一番最初に方法ということで、心と体の振り返りシート等を使ったというところで前にも意見を言ったことですが、この方法を使っている中でどれだけこどもの本当のニーズというのが拾えているのかなというのはちょっと疑問に思っているところです。

先ほど言った視察のことに話が戻るんですが、岐阜市でちょっと名前を忘れて、吉里課長は覚えてらっしゃるかもしれませんが、経過観察をこどもたちが自分たちで書いて、その変化からこどもの異常を見取るというようなことをされていましたよね。

前にも言いましたが、心と体の振り返りシートを現場で使っていたこともあります、どの項目に丸がついたからその子をカウンセリングに持っていくのかというのは、本当に大体の勘でやっているようなところもあるんですね。

ということで、つまりふだんの観察からとかいうところで上がってくる子もたくさんいると思いますけど、ああいった何かまた新たな方法というのでも検討していく必要もあるのかなというふうに思いますので、今後検討していただけたらと思います。

吉里麻紀 総合支援課長

ご意見ありがとうございます。

私も岐阜に視察に行かせていただきまして、とても参考になりました。ICTを使う方法や、現場の先生方の毎日の健康観察等に加えて、様々な方法でこどもたちの心について把握ができるように、総合支援課でもしっかりと検討していきたいと考えております。

西山忠男 委員

今のお話は、「ここタン」という名前でありましたね。ICTを活用した心の健康サポートということで、毎日登校したら、今日の調子はどうですかみたいなところをぽんと押すというだけで、帰るときもまた、調子はどうですかというところをぽんと押す。それだ

遠藤洋路 教育長	けなんだけど、それをずっと継続しているとお子さんの心の変化、体調の変化が一目で分かります。非常に有効な取組で、SOSの機会を捉えることができるというのが良い点でしたね。 それから、生徒が先生を指定して相談できるというシステムをつくっていましたよね。そこがまたいいなというふうに思ったところですよ。補足でした。 視察の振り返りの回るときにまたぜひお願いできればと思います。 私も毎日チェックする自己申告というのは、それを聞く前は、自分で調子どうですかって言って、いいですよしか答えないだろうと思いました。でも、よく聞いてみると、確かに毎日大丈夫ですっていい子になるというのは、多分すごく疲れるというか。そのうち何か心境が変わってきたりすることもあるだろうなということで、変化が分かるという点では、毎日の健康観察をしっかり記録するというのはとても大事だろうなというふうに思いました。 ぜひ岐阜市も参考にし、総合支援課でもよりよい方法を考えてもらえるといいかなと思っています。 よろしいですか。 では、ほかにないようでしたら本件は以上といたします。
・報告（3）小中学校の学習者用端末（i P a d）の更新について 《吉田潔 教育センター所長 報告》	
西山忠男 委員	契約金額が77億円で補助金が約24億円。これはどこからの補助金なんでしょうか。それから、その差額はとするんでしょうか。
吉田潔 教育センター所長	補助金は国から出していただくものになりまして、総額は足し算して101億円ということになります。残りの77億円につきましては市の負担ということになります。
西山忠男 委員	今の説明はちょっとよく分からない。契約金額が77億円ですよ。
吉田潔 教育センター	はい。77億円が市の負担ということになります。

所長 西山忠男 委員	そうなんですか。なるほど。じゃ、実際はそれに24億円足さなきゃいけないんですね。
吉田潔 教育センター 所長 西山忠男 委員	そのとおりでございます。 分かりました。 ほかの自治体では、iPadの更新ができなくて個人負担で買ってもらおうという自治体も出てきているという報道がありますが、熊本市はこれだけの予算がつぎ込めるんですね。今後とも、将来的にも。
吉田潔 教育センター 所長	その有用性等を理解していただいて、少し端末自体は単価が高いのでありますけど、推進していくということでこの予算を取っていただいたということでございます。
西山忠男 委員	こんなことを申し上げても仕方ないんですけど、今、国の政策で大きな問題になっている103万円の壁というのがあって、あれが実施されると地方の税収が極端に減るという、大西市長もその懸念を示しておられましたよね。地方の財政が減ってくると、まず最初に削られるのは教育予算だと私は思うんですよね。だから、その辺はよく注意して見ていかないといけないかなと思っています。これは感想です。
遠藤洋路 教育長	この金額は今のiPadの契約と大体同じか若干安い、そのぐらいの金額でしたか。
吉田潔 教育センター 所長	単年で見たとときに若干低めになっていると思います。年間が16億円。すみません、ちょっと今計算はしておりませんが、同じぐらいの少し低めに設定されていると思います。
遠藤洋路 教育長	今使っているのより少し安くなるということ。 これはあれですか、国の補助が4万5,000円が5万5,000円になったことによって市の負担が安くなっているといいですか、それとも契約の総額から見ても今の契約よりも年間当たり安くなったということですか。

吉田 潔 教育センター 所長	まず、端末の補助が高くなったというのもございますけど、今回、一般競争入札をさせていただいたことで2者の入札がございまして、2者が競合されたことによって最初の予定価格よりも、あと見込みのほうでも下がったというような経緯はございます。
遠藤洋路 教育長	まず、契約の総額自体が下がったということですね。分かりました。
澤栄美 委員	今度、キーボードがカバーになるということで、私もこの間教育長からも聞いていたんですけど、今まで子どもたちがこの画面上のキーボードでよくあれ打つなというような状況で打っていたので、非常に良いことだなと思うんです。この間視察に行った学校でも、多分Chromebookだったと思うんですけど、外に持って行って使うというのには非常に何か重たくて使いにくいものだよねと思うんです。このカバーに関しては割と外で活動するときにも使えるというか、あんまり重さはないようなものなのかというのが1点聞きたいと思いました。 それから、こういった端末の導入のこととはやや関係ないのかもかもしれませんが、夏にあった校長会の懇親会のときにある校長先生から、お家によっては家族で何かテザリングをして使っているんじゃないかというような事例もあるというようなことを伺ったんです。ここで7ギガバイトになるということになっていますけど、それ以上の、もう近いぐらいのものを使っているご家庭があるということを知ったときに、それが本当であれば、そういった家庭への働きかけというのはどういうふうに行われているのかなというのを聞きしたいなと思いました。
吉田 潔 教育センター 所長	では、まずは1点目の重さに関してですけど、キーボードが付くことによって重さはやっぱり重くなるのは正直なところございます。そもそもコンパクトなものではございますので、持ち運びに関しては外での活動にはあまり支障はないかなと捉えています。 キーボードの入力自体に、熊本市としても課題がございましたので、今回セットになるということは、気軽にいつでも使える環境にあるということのメリットも大きいかなと捉えているところです。 あと、テザリングを家族でされている件に関してですけど、通信用に関しては7ギガバイトのシェアプランになっていますので、7ギガを超えても使える環境には正直ございます。一応通信量が多いご家庭に関しては、端末ごとの通信量自体が把握できますので、学

	校にお示しをさせていただいて、通信容量が極端に多い場合には、こどもさんであるとか家庭にアプローチさせていただいて、使い方どうですかとか、健康面で心配なんですけどということで学校から連絡していただくようにはお願いしているところです。 実際、家庭でテザリングされているという実態については、お話は聞いたことがございますけど、どれ位あるとかいうのは把握できてないところでございます。
遠藤洋路 教育長	ほかにいかがでしょうか。 村田委員は。保護者の立場から何かありますか。
村田慎 委員	タブレットケースを何回破損して買い換えたか分からないぐらい何回も買ってまいりました。壊さないで使ってもらえたらと思います。
遠藤洋路 教育長	キーボードつきのカバーを壊した場合、どうなるんですか。
吉田潔 教育センター 所長	今回のこのキーボードつきのカバーにつきましては、補償対象になっていますので、壊れたときには新しいものが来るという形で今回の契約ではなっております。
遠藤洋路 教育長	保護者に買い直してくださいって言わなくていいということですね。
村田慎 委員	そうであればなおさら大事に使うようにしっかり言いたいと思います。
澤栄美 委員	低学年は今までみたいに持ち歩くみたいなことですかね。キーボードになるのは、ここで見ると小学校高学年、中学。でも、これはソフトカバーとハードカバーなんですよ。
遠藤洋路 教育長	それは今の契約ですね。
澤栄美 委員	そうですね。
澤栄美 委員	全部がそうなるってことですか。低学年でも。
吉田潔 教育センター	今の契約で申しますと、導入段階では全員がキーボード付きのカ

所長	バーのケースが付くということになります。 正直、学校からも低学年は今ソフトカバーケースを使って、野外の活動でも使っていますので、それができないかなという相談も実際受けておりますので、それに関しては検討しているところでございます。
澤栄美 委員	今学校に行くと、低学年のこどもとかはここに下げてそれを持っていくみたいな感じなんですけど、このキーボードカバーになるとその取っ手みたいなのはなくなるという、そういうことになりますかね。 分かりました。あとは学校の工夫次第ということですね。
遠藤洋路 教育長	今のカバーはちょっと大き過ぎてランドセルに入りにくいとか、そういう課題もあったので、持ち運びはしやすくなるのかなと思っています。保管とかは確かに工夫していくというところは出てくるかもしれないですね。 ほかはよろしいでしょうか。 先ほど西山委員からもありましたけど、よく頑張って予算取ったというのが率直な気持ちですね。教育センターは本当にお疲れさまでした。これから運用ですので、ぜひ、またより有効に活用できるようにしていきましょう。 よろしいですかね。 では、ほかになれば本件は以上といたします。
日程第6 自由討議 ・テーマ「教員研修のあり方について」 《榎木 敏之 教育センター副所長 説明》	
遠藤洋路 教育長	では、討議に入ります。 今回の事務処理のテーマはどなたからのご提案でしたか。西山委員でしたかね。
西山忠男 委員	私でしたか。

遠藤洋路 教育長	何か西山委員から最初にコメントを。では、お願いします。
西山忠男 委員	特別支援教育の専門性を高めることが一般教諭についても必要だということで、その研修をやりましょうということになっていると思いますが、それはどこになりますか。ご説明をお願いします。
榎木敏之 教育センター副所長	経年者研修では、例えば初任者研修であれば特別支援教育という講座を用意しまして、配慮を要する児童生徒理解という研修を行っています。今年度であれば10月10日、オンラインで実施したところになります。資料には細かいところまで書いてありませんけど、経年者研修の中に計画的に位置付けて、例えば健康教育課には健康教育に関する内容であったり、教職員課には教育公務員倫理であったりというのも網羅するような形で研修を行っているところです。 あと、特に詳しく知りたいという場合はSD研修のほうに、それは資料にあると思います。
西山忠男 委員	特別支援教育の専門性を高める授業も計画的にやっていかなきゃいけないと思うんですよね。SD研修で特別支援教育スキルアップ等で先進校の視察というのがあって、これは毎年何人か派遣していると思うんですけど、そういう話は聞いたことがあるんですが、具体的に年間何名ぐらい実施していて、今後の計画として、何年ぐらいたてば一応皆さんが一通りの特別支援教育の知識を身につけられるのかということを知りたいんですけど。
吉里麻紀 総合支援課長	スキルアップ派遣研修につきましては、過去3年ほど申し上げますと、令和4年が4名予定しておりましたけど、実際には3名派遣しております。令和5年度が5名、今年度は3名の先生方をそれぞれ特別支援教育等の先進校へ派遣しております。 何年たつて全員がということではありませんけど、派遣した先生方には研修報告等もしていただきまして、それを研修会等において全体で共有するような形を取っております。 そのほか、先ほどもありましたけど、学校や教員の求めに応じてステップ・アップサポーターを派遣し、特別支援教育の視点を生かした授業づくりの支援・指導を行っています。また、今、若い先生方にTalk Roomというのを開催しております、先生方が、学級経営や授業づくり等で日頃の困り事を率直に指導主事と意見交換するような、そういった場を設けました。さらに、特別支援教

西山忠男 委員

育の様々な観点から動画のほうもいろいろ作成しておりまして、いつでも先生方が見ていただけますように、特に通常の学級でも特別支援教育の視点を生かした授業展開をしていただきますように、配信をしているようなところでございます。

S D研修で先進校の視察に派遣するのは年間数名いるという話は前にも聞いたような気がして、ちょっと少ないなという印象があったので、視察に行くのはお金もかかりますからなかなか人数は増やせないと思うんです。今おっしゃったようにその他の校内研修等で課題別研修に上げてありますけど、こういうのをかなり充実させていただいて、皆さんが一通りの特別支援の知識を持てるように進めていただければなと思います。よろしくお願いします。

澤栄美 委員

3点質問させていただきます。

まず、コロナがあってオンラインの研修がやはり増えたと思うんですけど、全体を大体見通しましたが、オンラインのものと対面のものとありますけど、その区別というか線引きというか。どういうものはオンラインにしてどういうものを対面にしていращやるのかというのを聞きたいことが1点目です。

2点目に、先ほどもお話がありましたけど、S D研修の中のT a l k R o o mというのが方向性として非常にいいのかなと思ったときに、13ページにあげてありますが、講師が教育センター指導主事と各教科等研究会等ということで、事前に何か質問が上がってきて講師が選定されていくのでしょうか。それとも、そのときにたまたま講師がいてその人に合った質問をしているのか。どういう運用をされているか。非常にいい取組かなと思ったので聞きたいと思いました。

3点目に、平成31年とそれから令和5年の例を出してあったんですが、以前は研究委嘱校と指定校があって研究モデル校があったのが、研究モデル校だけになった経緯というのを教えていただけたらと思います。

榎木敏之 教育センター
一副所長

それでは、まず1点目のコロナの後に始まったオンライン研修、その対面とオンラインの区別になります。

学校ではなかなかできない研修というのが1つ、同じ立場の例えば初任者同士が2人いる学校もあれば1人しかいない学校もありますので、そういう研修者が一緒に集まることで、研修内容とは少し違っても日常の悩みとか、うまくやっていることを一緒に共有で

きたりというところが対面の良さになりますので、対面の場合は必ず横同士のつながりをつくれるような研修にしているところです。

これは一人職についても、養護教諭であったり、教科であっても中学校で一人教科である、例えば学校に一人しか音楽の先生がいないとか、小学校で例えば専科の先生は同じ立場の人が学校内にいないとかいうときは、そういうものをできるだけ使おうと。

ただ、これをグループに分かれてオンラインでやるということも実際はできますので、技術的にオンラインでは全くできないというわけではありません。教育センターの中では、対面のほうが先生方の話が、オンラインで分かれて集まるよりは非常に話が進んでとても充実感があるなと感じているところなので、できるだけ対面をしたいという希望はあるんです。けど、学校からできるだけオンラインでしてほしいという要望が逆にあるのが事実で、それは学校を空ける時間が長いというのも1つあるんですけど、やっぱり旅費がないと。旅費がないのに対面というのをあんまり入れてもらうと困るということで、そのあたりは、少なくとも初任者であれば数回は対面を集合研修でやると。全部集合とか全部オンラインではなくて、どのグループ、15年目研であっても数回は対面でやるというようなことで進めているところです。

ただ、センター指導主事の話を知ると、やっぱり対面で集まっていろんなものを一緒に作り上げたときの研修は、それはオンラインでは全くできないところまで充実度が上がるということを聞いていますので、本来は集合して同じような立場の者が集まって研修するというのには意味があるのかなと思っていますところ。

だから、ちょっとそこは目的だけではなくいろんな声とか制約があって、少しオンラインとのバランスができていくというところになります。

2点目のSD研修のTalk Roomについてなんですけど、Talk Roomは、いろんな他都市の指導主事と集まって研修なんかで話すときに、とってもいい制度がありますねと言われます。これはどういうものかと申しますと、各教科、それから、役割でも集まることがあります。研究主任が集まって、各学校で研究主任って一人しかいませんので、その人が集まって日常の学校の中での研究の推進の悩みを共有する。そこには指導主事が入って、必ずいろんな新しい情報を提供したりもします。

各教科でもあるんですけど、この前は市立高校の2校からTalk Roomに7名参加されていました。だから、すごく先生方の困り感がもう既にあるということなんですけど、そこで自分の日常の

授業の悩みを出して、いろんな同じ立場の教諭同士でも、指導主事も入っていますので、そこで何らかの方向性というか解決策を見つけて、見つけることができないときもあると思うんですけど、毎月やっていますので、また繰り返し参加される方がいらっしやいます。悩みをわざわざここに来たり誰かを呼んで相談するというわけではないんですけど、オンラインを通じてやっていくということになります。

先ほどの講師の参加についてですが、特別に指導主事じゃない方が入るときは、事前にそういう話をもともと計画していることが多いです。突然入ってもいいし、突然入ることもあるんですけど、一応このときはこの方のお話が聞けますとか、そういうことでTalk Roomに入るようなことはあります。ただ、どうしても授業が終わった後に時間を確保しますので、少し勤務時間から出てしまいます。そのあたりがあまり強制できないという研修になります。

昔はトワイライト研修といって、ものすごく遅い時間から教育センターに集まってもらって研修していたことがありますけど、それに比べると負担はものすごく少なく、オンラインでできますので。ただ、非常に参加された先生はとてもそこを大事に考えている時間だと思っています。

3点目の研修委嘱・モデル校について、現在のようなモデル校だけの形になったというのは、1つは、その決める場に私がいたわけではないんですけど、聞いているお話では、1つは働き方改革ということで、研究委嘱校が2年間取り組むということで非常に負担が大きいのではないか、学校の実情に合わせて進めるという部分も必要ではないかということで、委嘱校と指定校のやり方はやめてモデル校という形にしたと聞いています。

モデル校の場合が発表したり、発表しないという研究でもいいということで学校の実情に合わせて進めています。動画で最後発信するというのも可能ということですので、学校の負担がそこまで大きくなならないような形で、研究は各学校で進めてもらうということで呼びかけているところです。モデル校は1年間でも、2年目続けることも可能です。そういう形でちょっと柔軟な形に変えてきたということになります。

遠藤洋路 教育長

よろしいですか。

3点目は確かに副所長が言ったように、そう言ったなって記憶しています。2年連続の指定校は学校が大変という、負担が大きいということで、モデル校で1年ということになりましたという経緯だ

澤栄美 委員	と思います。 それで何か内容のクオリティーが下がるとか、そういったことは別にないわけですね。私も研究校に行ったことがあるんで、大変は大変だけどそれがまた勉強になったというところもあったなと思って。質が保たれているならそれでいいかなと。 また、さっき言われたように私も申込みをしましたけど、北部中なんかはオンデマンドで配信するということで、いろんな形で模索しながら皆さんが勉強できる機会が保てればいいかなと思いました。ありがとうございます。
榎木敏之 教育センター 一副所長	質が下がらないように教育センターとして支援をしているところです。どうしても研究指定校の場合は研究紀要をつくったり、ものすごくその取組の根拠というか、どういう仮説に基づいてこの取組をやっているとか、そういうのが明確にできていたという部分は、やっぱり2年間の取組でしたのであると思います。そういうところも、研究紀要はつくらなくても授業公開の中でそういうことを伝えていけるような、何らかの根拠を持ってこういう取組をしたと、先進的な取組をしたということをモデル校自身が公表できるような、そして市全体に広げていけるように教育センターとしても支援をしていきたいと考えているところです。
澤栄美 委員	直接的な先生方の研修とは関係ないんですけど、例えば職能研修なんかで、本当によく熊本市教育センターはこの人を呼べたなというようにすばらしい講師陣がいらっしゃるんですけど、教育委員としてそういうのに参加するというのは可能なんでしょうか。 今、それこそモデル校の内容についてはいつも頂いていて、希望したら行けるんですけど、この人のお話が聞きたかったなって思ったりする内容もあるので、参加は可能なんでしょうか、教育委員も。
榎木敏之 教育センター 一副所長	一応、対象を決めていますので、一般の研修参加というのはちょっとお断りしている研修はたくさんあるんですけど、熊本市の教育委員会が実施している研修がどのような形でどのように実施されているかというのを教育委員の立場で見に来られるということであれば、どの研修でもご参加いただいて構わないかなと思います。 ただ、研究モデル校とかの授業公開などは、ほかの熊本市外の学校であつても希望したら見ていただいて共有するというのはありますので、そのあたりは一般にも公開していると。一般に公開して

遠藤洋路 教育長

いるというのはないんですけど、同じような課題を持っている先生方なら参加して一緒に学びましょうというようなところは広がっているところですよ。

一般に公開しているか、していないかという問題よりも、教育委員というのは研修をやっている側ですから、行っただけは駄目ということはないと思います。

西山忠男 委員

研修の内容を拝見して、非常にいろんな問題について細かくやっておられるなというのは感心したんですけど、私は教員としての人間性を磨くあるいは教員として世界観を広げるとか、何かそういう研修が欲しいなと思うんですよね。

というのは、何か不祥事を起こして懲戒処分を受けたような先生を特別に研修する場合は個別にありますよね。でもそれ、もう遅いんですよね。その前に教師として人間として成長してもらいたい。そういう人間として成長するような研修をぜひやってもらいたい。

例えば、私は前、国境なき医師団の医師の講演を聞いたことがあるんですけど、これはすごく感動しましたね。非常に命の危険にさらされるような場所で医療活動を行って、明日は危険な状況だからと、夜のうちにさっと逃げてしまわなきゃいけない状況とかそんな話。臨場感のある話を聞くとやっぱりすごいなと、こういう世界があるんだなと思いましたよね。そういう話とか。

あるいはもう亡くなられたけど中村哲さんのアフガンでの治水事業の話とか、あれは継承している人たちがいますから。中村哲さんの活動については講演を聞くことはできるんじゃないかと思うんですけど、そういう話とか。

あるいはもっと身近なところで、我々の教員仲間でいろんな体験をしておられる方がいらっしゃる。そういう方の話を聞く。例えば、今日見えておられますけど、南校長先生はよくLGBTQの講演をしてらっしゃるんですよ。私、1度聞きましたけど、非常に感動しました。なぜ感動したかというのは、聞いてみられたら分かります。お話はしませんが。そういうお話を伺うとか。

あるいは数年前に校長先生になられた人で、ニューヨークの日本人学校で勤務しておられた方がいらっしゃいます。お名前忘れましたけど。その人にニューヨークの体験談を聞くとか。そうすると非常に、身近な人でこんな経験をしている人がいるんだととても勉強になると思うんですよね。そういうのも企画していいんじゃないかなという気がします。

	だから、学校教育というのに非常に縛られたような感じの研修ばかりではなくて、そういうぱっと心が世界に向いて開いていくような研修をしてもらいたいなと思うんですよね。 というのは、校長面接をして、あなたが自分の成長のためにどんなことをなさっていますかと聞くと、私が感心するような答えが返ってくる人はあまりいないんですよ。もうちょっと勉強してもらいたいなと私はよく思うので、そういうことをちょっと申し上げました。
榎木敏之 教育センター 一副所長	ありがとうございます。教育センターでも、そういうふうな心に響く研修になるように、講師の選定から考えていきたいと思えます。 現在、できるだけきりぎり塾などで、いろんなご経験のある有名な方を講師としてお招きして聞いてもらうという機会もつくりはしているんです。今年であれば民間のANAから講師をしていただいたり、教育現場とはちょっと違うところなんですけど。そういうのも含めて、今後、またさらに検討を進めていきたいと思えます。ありがとうございます。
澤栄美 委員	今の話を聞いて思い出したんですが、以前、今のシアーズホームですか、あそこに夏休みに学校から何名と指定され、希望者が集まってそういった著名な方の話を聞くというのがあったんですが、あれは無くなったんですか。
榎木敏之 教育センター 一副所長	新旧比較表の中にも書いてあるんですけど、平成29年の頃までは教育講演会というのがありまして、教職員の4割が夏休みの時間を利用して、出張でそこまで来て、教育とは少し離れた、いろんな人の生き方とかいろんなことを聞くという講演会があったんですが、これが恐らく、ちょっと流れは分からないんですけど、1つはコロナの時に、大人数を集めた研修というのが難しいというようなことで無くなったのではないかなと思うんです。その後、そういう形の研修は今のところやってないというような状況です。
澤栄美 委員	それこそオンラインが可能になったので出張旅費も要らないし、何か夏休みのどこかでそういったものを計画してもいいのかなって聞きながら思いました。私も何回も参加しましたが、蒲島知事、その当時、知事になられていたかと思えますけど、お話がすごく記憶に残っていて、やっぱりああいったことを、西山委員が言われる

榎木敏之 教育センター 一副所長	ように人の生き方とか何かそういったことを聞く機会が、できるだけたくさんあるといいのかなと思いましたので提案させていただきます。
	ありがとうございます。今度研修に、昔の教育講演会のような研修もセンターでどのような形ができるか検討してみたいと思います。 来年度から研修履歴システムというのが入りまして、そこにはいろんな動画コンテンツ、文科省が用意したものとか、大学関係がどれぐらい入ってくるか分からないんですけど、そういう中に自由に見られる動画の研修というのがたくさん入ってくると思いますので、その内容、どんなものがそこに入ってくるかも見ながら検討を進めていきたいと思います。 それは、先生方が自分のパソコン画面上で申込みをして、そういう動画を見て、研修履歴に残っていくというようなことになりますので、同じ時間に同じ話を聞かなくても自分の聞きたいときに聞けるというような研修に変わっていきます。そのあたりもどういう形、どういう内容まで含めているかというのも確認しながら進めていきたいと思います。ありがとうございます。
遠藤洋路 教育長	ここに書いてある研修というのはほとんど教育関係のテーマですから、それ以外の研修のテーマでというのは確かにそうだなと思いました。 教育講演会は何でなくなったのかな。経緯は覚えていませんが。以前いろいろ市民会館でやっていましたね。 私、思うんですけど、教育委員さんに皆さんにお話をいただく機会も欲しいなって。苫野委員もいろんなところで話をされていますけど、熊本市の教育委員としてというか、熊本市の人たちに熊本市の仕事としてお話をしてもらおうという機会はあまりなかったような気がします。私もこの前きらりて話をしましたし、何かほかの委員さんの話も聞いてみたいと思うので。西山委員からとか。
西山忠男 委員	やぶ蛇でしたね、これは。
遠藤洋路 教育長	いや、いつもずっと思っていたんですよ。
村田慎 委員	化石の話とか。

遠藤洋路 教育長	石の話でもいいですし。
西山忠男 委員	いや、そんな役に立たない話をしても仕方ない。
遠藤洋路 教育長	何か教育委員さんともっと、いつもこれもZoomで皆さん、校長先生とか見ているかもしれないけど、何か直接話を聞く機会もあった方がいいかなという気はしましたね。この前もZoomで見ているのと同じですねって誰か言った人がいましたね。それはそうでしょう、同じ人だからと思いました。 そんなことでぜひ。すみません、それを言うために協議をやったわけじゃないですけど。そんな機会もあったらいいかなと思っただけです。
村田慎 委員	体罰や暴言、不適切な指導というのを体罰等審議委員会で認定を受けた先生のその後の研修というのがあっていると思うんですけど、そうじゃない、そうしたことを予防するための研修というのがどういう形になっているのかというのを改めてお尋ねしたいなと思います。
榎木敏之 教育センター 一副所長	体罰、暴言の位置づけからいくと予防的な研修というようなことになりますけど、これも経年者研修の中で初任者、2年目、3年目、その中に位置づけて、教育センターの研修なんですけど、先ほどの特別支援教育に取っている時間は総合支援課が担当して、指導主事または特別な講師を呼んでやったりとか、その枠の中の充実はそれぞれの課でお願いしているところでして、一番その先生方のニーズに応じた研修をやるということで進めているところです。 今年は、例えばカウンセリング研修などでやっぱりコミュニケーションがうまく取れないとか、そういう者の研修であったり、それと人権教育にも絡みますので人権教育のところであったり、先ほどの教員のいろんな倫理感とか使命感に関するところはやっぱり教育公務員倫理というような内容で研修をしたりしているところです。その中で、事例も含めてこういう事例が起きた、その事例についてちょっと考えると、そういうのも1年目にやったことと2年目にやったのが同じ研修にならないように、そこが続いていくような形で研修の内容を考えて配置しているところです。 経年者研修については、基本的には網羅するような形で研修を取り入れてやっています。SD研修はなかったかもしないですけど、SD研修の中にコーチング研修とかカウンセリング研修などに

村田 慎 委員

ちょっと重なる部分があるかなと。

そもそもそこは元をたどっていくと、どこに問題があったかと。やっぱりコミュニケーションがうまく取れないとか子ども理解がうまくできてなかったとか、そういういろんな原因というか背景が出てきますので、そういうところの難しさを研修で少し意識してもらったりトレーニングしてもらったりできるような形で進めているところです。

ありがとうございます。

その具体的な事例のケーススタディーというような形というのをぜひ充実してもらえたらなと思っているところなんです。

いざ自分がその当事者になってしまったときというのは、もちろんそのお子さんや保護者だけではなく、自分のクラスの運営もあると思いますし、客観的に見たり判断したりという時間の余裕とかもないと思うので、そういう判断をしたりというのは難しいと思うんですよね。あえて事あるごとに定期的に、ほかの先生方と一緒に、こういうところがほかに方法があったよねとか言い方があったよねとか、どの点が良くなかったかとか適切じゃなかったかというのが、客観的に見ていくほうが見えてきやすいというところがたくさんあると思うんですね。

だからこそ、これまでもたくさんあった事案というのをぜひどんどんケーススタディーにしていってもらって、こういうときに初動をどうしたとか、たくさん振り返ってもらったり共有してもらったりしていくと、そういったところで共有したものというのがいずれそれから先も教員生活を送られる中で様々なお子さんや保護者と関わっていく中で、必ずまた同じようなケースというのに遭遇する日が来ると思うんですよね。いざというときに、当事者じゃないかもしれないし、あるいは当事者の先生のすぐそばにいる立場からどういうふうに動いてあげられるとか、先生方自身を守るために日頃の予防の観点での研修とか人との向き合い方というのにどんどん生かしてもらえたらなと考えています。

榎木敏之 教育センター
一副所長

ありがとうございました。

今後研修を組んでいくときに、いただいたご意見を一緒にセンター職員と共有しながら進めていきたいと思います。

今年は全ての内容を、時間が限られていますので扱うことができませんでしたので、初任者の場合は自己理解というところと、それとアンガーマネジメントというのを取り上げて事例も含めて研修

澤栄美 委員

を行っています。講師は臨床心理士の先生なんですけど、お願いして、そういうものを共有しながら先生たちが足りない部分について、グループワークがとっても効果的ですので、そういうものを入れながら今回はしたところですよ。その先生が2年目研修になると、少し違った内容を取り入れながらやっていくというような形になっていきます。

すみません。ありがとうございました。

今日は教育センターが主催している研修について、主にお話だったと思うんですけど、以前もここで話したことがあるんですけど、校内研修を充実するというのも非常に大事だと思うんですね。小学校が、確かそのとき出されたデータでは年間30時間ぐらいですかね、中学校がその半分ぐらいということで、そのときに聞いたら、中学校はやっぱり部活とかもあるし、なかなか研修の時間に出るのが難しいですというお答えも返ってきたような気がするんです。

やはり校内でいつも、今日苦野委員がお休みですので私が代わりに言うと、やっぱり対話が必要ということで、対話をしながら同じ学校に所属する先生たちが一緒に学び合うというその場も充実して欲しいなという思いがあります。

ほとんどの場合は年間の大体ゴールを決めてそれに向かってという授業に関してのところが多いと思うんですけど、その合間でいろんな講師を呼んで研修するというのもありますよね。

私もほんのちょっとですけど、依頼があれば行って児童生徒理解というところでお話をする機会があるんですけど、家庭教育セミナーあたりは地域教育推進課ですか、で講師依頼とかがあるんですけど、教育センターのほうでもこういう人がいますよみたいな何か人材バンクみたいな、そういうのをつくっていただくといいのかなというの。

もちろんステップアップ・サポーターとかいろんな人材が教育センター内にもおられますので、さっき村田委員が言われたような体罰を起こさない事前のこども理解とか、そういったことに関わるような講師。大体夏休みとか空いたときに行ったりすることが多いと思うんですけど、研究テーマとは別の内容でやる場合は。何かそういったものも準備してもらおうと、校内の先生たちとやっぱり一緒に学び合うというところを大事にできていいのかなというふうに思いました。

榎木敏之 教育センター
一副所長

ありがとうございます。

一応教育センターが校内研で講師を各学校へ呼ばれるときに報償費などをうまく活用できるように、たくさん呼ばれる学校にはそれに対応できるように調整しながら進めているところです。

講師の人材バンクまでできればいいんですけど、まあまあ限られているというか、学校がこんな人をお呼びしたいけどというときにセンターが知っている範囲を紹介するだけで割と解決する。それと熊大との連携もありまして、熊大の大学の先生方は連携の一環としてお呼びできる。現在、熊本市の中からお呼びしないとちょっと旅費がうまく払えなかったりしますので、そういうところで人材バンクをつくるまでもなく、そんなに何百人も候補者がいるわけではないので、今のままでもいいのかと思います。

ただ、積極的にこういう研究をされている先生をお呼びできますよとか、そういう最新情報はどんどん学校のほうにお伝えしていきたいと考えているところです。まだどんな形がいいのかというのはセンターで、持ち帰って検討していきたいと思います。ありがとうございます。

松岡美幸 指導課長

失礼いたします。校内研修ということで、指導課で行っていることを紹介させていただきます。

校長先生、園長先生が集まれる年間4回の校長・園長会があります。そこの毎回1時間程度枠を取って、前田康裕先生に講師として入ってもらい、校内研修マネジメントプロジェクトということで研修を重ねていくという取組をやっております。確かこれは申し上げてなかったかと思いますが、お伝えしましたか。

澤栄美 委員

私は別ルートで知っていたんで、何かここで聞いたかどうかちょっと。

松岡美幸 指導課長

お伝えしていなかったならばそのことについてお伝えしようと思います。

なぜ校長先生にその研修をしていただくかというと、やはり校内の研修の在り方が授業改善に直結しているからです。子どもたちが学び取る授業改善のためには、校内で、今まさにおっしゃったように対話を通して授業を変えていく、改善していくという営みが非常に大事だと捉えていて、そのためには、校長先生がしっかり校内の関係性づくりとか下支えとか、マネジメントしていただくことが重要だと思っているからです。

遠藤洋路 教育長

1回目が前田康裕先生からこの研修の概要を話していただいて、1年間の見通しを持ってくださいということをお話しされました。

2回目が夏休み前にあったんですけど、各校長先生方がどのように校内でマネジメントしていくかという見通しについてそれぞれKeynoteでまとめていただいて、校長先生が3人グループになっていただき発表をしていただく。代表の先生に発表していただくということもされました。

3回目が年度途中でありますので、どのようにやっているかという実際のところを代表の校長先生3名に発表していただいて、その後、グループごとにそれぞれの取組を共有していただきました。

最後に、2月に1年間まとめていただいご発表にさせていただくということで、校内研修を校長先生がしっかりマネジメントしていくという会を持たせていただいています。中身の充実も非常に大事だと思いますので、教育センターとしっかり連携しながら進めるようにしていきたいというふうに考えております。

ほかにご発言はよろしいでしょうか。

では、ほかになければ本件は以上といたします。

【非公開の審議】

日程第4 協議

- ・協議（2） 令和9年度市立高等学校入学者選抜について

《松岡美幸 指導課長 説明》

《上野正直 必由館高等学校校長 説明》

《南弘一 千原台高等学校校長 説明》

日程第3 議事

- ・議第67号 令和7年度（2025年度）市立学校の校長の特例任用について

《上村清敬 教職員課長 提出理由説明》

〔採決〕 【原案どおり承認された】

令和6年（2024年）11月 教育委員会会議録【11月28日（木）】

〔閉会〕 遠藤洋路 教育長	以上で、本日の会議日程は全て終了いたしました。 以上で令和6年11月定例教育委員会会議を閉会いたします。
-----------------------------	--